

Title	京成電鉄の事例による経営の失敗の研究
Sub Title	
Author	藤井浩二(Fujii, Kouji) 森川英正
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第873号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0873

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

藤井 浩二

主査 森川 英正

副査 小野桂之介

奥村 昭博

所属

森川 英正 研究室

京成電鉄の事例による経営の失敗の研究

本論文は、昭和52年（1977年）大手私鉄唯一の赤字無配会社に転落し、其の後13年間に亘り無配を続けざるを得なかった京成電鉄の経営の失敗について、世に広く唱えられている”列島改造”の波に乗る不動産事業拡大を襲ったオイルショックの影響、及び新東京国際空港の開港遅れによる投資回収の遅れ、の2大原因の下にある核心的原因を明らかにしようとするものである。

一般に、経営の失敗については、当事者及び当該企業が不名誉なこととして材料を提供したがない傾向があり、これに加えてマスコミ等による興味本位でドラマティックな報告が横行しているように感じられる。本研究はこのような傾向を排し、努めてデータを用いた科学的態度による報告を心掛け、似たような事業特性を持つ同業他社、京王帝都電鉄との戦後30年に亘る経営の比較研究によってこれをすすめることとしたものである。

また、この論文は、研究者本人が研究対象の京成電鉄にノンキャリア作業員から、スタッフ部門のミドルマネジャーまで、企業内部で仕事をした経験を持ち、退社後は企業内トレーニングの仕事に携わり多くの企業組織に接した上、更に今回慶應ビジネススクールにおいて不十分ながら広く浅く経営一般を眺める材料を得たという点で、企業を内側から眺めた目と、研究対象として外側から眺めた目の2つの視点を併せ持った者の研究である点に、その特徴があり、このような例は、経営の失敗の研究としては少ないのではないかと思われる。